

ジェネリック医薬品に関するQ & A



有効成分が同じなら、どうして先発品より安い？
「安かろう悪かろう」ではないのか？



ジェネリック医薬品の薬価が安いのは、品質が劣るからではなく、研究開発費等のコストが先発品医薬品ほどかからないためです。
安い原材料を使用しているから、などという理由ではありません。



ジェネリック医薬品を使用するメリットは？

医療費の節約ができることです。個人負担はもちろんです、日本全体の医療費が節約でき、膨らむ医療費の抑制につながります。
個人個人では、実際の支払いに大きな差は出ないかもしれませんが、今後も国民皆保険制度を維持するために、ご協力をお願いします。



先発品との同等性はどのようにして確認している？ 何が同等なの？

「溶出試験」と「生物学的同等性試験」で確認しています。
先発品と同じように体内で溶出し、同等の血中濃度が得られることを確認し、試験結果について国の承認を得てジェネリック医薬品は作られています。



ジェネリック医薬品の原薬などは多くが海外で製造されたものなのでは？
日本で製造されているものでないと品質などが信用できない。

先発品もジェネリック医薬品も同じくらい海外製の原薬を使用しています。
また、世界統一の基準（GMP）に適合した工場で製造されているので、海外でも日本でも品質に大きな差はありません。

原薬の製造を海外の製造所で行っている医薬品*
(ジェネリック医薬品) 57.0%、(先発品医薬品) 58.6%

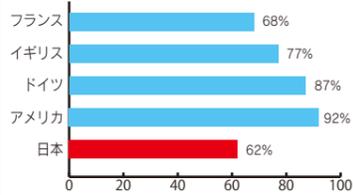
*データ元:平成29年度後発医薬品使用促進ロードマップ検証検討事業 報告書



日本以外の他の国ではジェネリック医薬品の使用状況はどうか？

欧米諸国と比べると、日本のジェネリック医薬品のシェアは低くなっています。
日本と欧米諸国とは、医療制度も異なり、ジェネリック医薬品をとりまく環境も異なるため、一概に比較できませんが、各国ともに医療費（薬剤費）を抑えるために積極的にジェネリック医薬品を使用しています。
他国に比べて優れている日本の国民皆保険制度を維持するためにも、ジェネリック医薬品を活用し、医療費を抑えましょう。

各国のジェネリック医薬品数量シェア



※ジェネリック医薬品のより詳しい内容や文献、製品の供給状況等の情報



日本ジェネリック製薬協会ホームページ
<https://www.jga.gr.jp/>



厚生労働省ホームページ 後発医薬品（ジェネリック医薬品）の使用促進について
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/kouhata-iyaku/

積極的なジェネリック医薬品の使用をお願いします。

大分県後発医薬品安心使用促進協議会 問い合わせ先:大分県福祉保健部薬務室 ☎:097-506-2650



平成31年3月作成

大分県後発医薬品安心使用促進協議会

大分県 ジェネリック現代

いつもあなたのそばに…
ジェネリック医薬品

ジェネリック医薬品
使用割合の現状

公開 大分県は全国で何位？
大分県市町村別使用割合

公開 ジェネリック医薬品採用の参考に
県内基幹病院の採用ジェネリック医薬品

ジェネリック医薬品に関するQ&A

ジェネリック医薬品の使用促進の必要性

医療費の伸びを抑制し、誰もが安心して医療を受けられる
日本の国民皆保険制度を持続可能なものとするため

日本の現状

◆増大し続ける医療費・薬剤費

平成28年度の国民医療費＝42.1兆円
(人口1人あたり332千円)

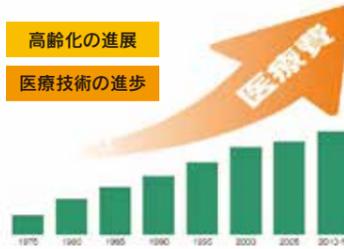
◆このまま医療費・薬剤費が増え続けると…

社会全体や、個人の負担が増え、医療保険制度の維持が難しくなるかもしれない。

◆医療保険制度維持のために一人ひとりができること

ジェネリック医薬品を使用することで医療費の伸びの抑制につながります。
可能な限りジェネリック医薬品の使用を進めましょう。

約1兆円
毎年増加



医療費の負担割合

(窓口以外でも実際は形を変えて費用を支払っている)

(出典:JGA作成 日本がもし1,000人の村だったら)



国の目標値 2020年9月までにジェネリック医薬品の使用割合＝80%以上

都道府県別ジェネリック医薬品割合(数量ベース、%) 全国平均 75.3%

都道府県	30年9月	順位	都道府県	30年9月	順位	都道府県	30年9月	順位
沖 縄	85.3	1	石 川	77.6	17	滋 賀	75.4	33
鹿 児 島	82.3	2	岡 山	77.3	18	茨 城	74.8	34
岩 手	81.5	3	三 重	77.0	19	兵 庫	74.1	35
宮 崎	80.3	4	静 岡	76.9	20	岐 阜	73.9	36
島 根	80.0	5	長 崎	76.7	21	奈 良	73.4	37
山 形	79.7	6	北 海 道	76.4	22	神 奈 川	73.4	37
福 井	79.4	7	秋 田	76.4	22	香 川	73.1	39
富 山	79.2	8	栃 木	76.3	24	広 島	72.8	40
長 野	79.2	8	埼 玉	76.3	24	和 歌 山	72.7	41
鳥 取	79.0	10	青 森	76.2	26	大 阪	72.1	42
群 馬	78.8	11	愛 媛	76.2	26	京 都	71.9	43
宮 城	78.6	12	福 岡	76.1	28	山 梨	71.5	44
佐 賀	78.4	13	大 分	76.1	28	東 京	70.8	45
新 潟	78.0	14	千 葉	75.9	30	高 知	70.4	46
熊 本	77.9	15	福 島	75.8	31	徳 島	67.9	47
山 口	77.7	16	愛 知	75.8	31	全 国	75.3	-

市町村別 後発医薬品割合 (数量ベース、%)

※平成29年度データより



市町村名	H29年度	順位	市町村名	H29年度	順位
竹田市	86.3	1	宇佐市	75.5	10
津久見市	81.9	2	臼杵市	75.2	11
国東市	81.6	3	杵築市	72.8	12
豊後高田市	81.2	4	速見郡日出町	72.7	13
日田市	78.6	5	由布市	71.8	14
豊後大野市	78.0	6	大分市	71.3	15
玖珠郡玖珠町	77.6	7	別府市	69.2	16
中津市	76.3	8	県平均	73.6	-
佐伯市	75.9	9			

※薬局のある市町村(電算処理分のみ)のため九重町、姫島村を除く。

目標達成のための施策

関連団体の代表者からなる

「大分県後発医薬品安心使用促進協議会」を設置

患者及び医療関係者が安心してジェネリック医薬品を使用することができるよう、安心使用促進に係る環境整備等に関する取組を実施



【協議会委員(17団体)】

医師会、歯科医師会、薬剤師会、
病院薬剤師会、医薬品卸業協会、
全国健康保険協会、医療機関等
(事務局) 大分県福祉保健部薬務室

《取組内容》

◆ アンケート調査実施 (医療機関、薬局等)

実態を把握し、必要な施策を検討

◆ 啓発資材の作成・配布

◆ ジェネリック医薬品採用品目リスト作成・公開

アンケート調査等で要望があった、医療機関のジェネリック医薬品採用品目リストを公開
(平成27年度に作成したリストを3年ぶりに更新)

《多くの医療機関が参考になり、活用しやすい形に改良》

- 県のホームページ上にデータ(Excel、PDF)で公開
- 対象医療機関を2.4倍に増加(8施設→19施設)

No.	医療機関名	No.	医療機関名	No.	医療機関名
1	国東市民病院	8	西田病院	15	大分県立病院
2	新別府病院	9	長門記念病院	16	大分医療センター
3	大分県厚生連鶴見病院	10	竹田医師会病院	17	大分赤十字病院
4	西別府病院	11	大久保病院	18	大分大学医学部附属病院
5	別府医療センター	12	中津市民病院	19	アルメイダ病院
6	済生会 日田病院	13	高田中央病院		
7	南海医療センター	14	宇佐高田医師会病院		

※平成30年9月現在のリストを公開



大分県薬務室ホームページ

「ジェネリック医薬品採用品目リスト(大分県内基幹病院等)」

URL: <https://www.pref.oita.jp/soshiki/12610/generic-list.html>

大分県 ジェネリック医薬品 リスト



各健康保険の保険者の取組み (ジェネリック医薬品関係)

◆ ジェネリック医薬品希望カード等の啓発資材の配布

◆ 被保険者を対象に「ジェネリック医薬品差額通知」の送付

